

平成27年9月21日(月) 熊日朝刊

観光農園やレストランなどを運営する「高司農園」の従業員ら。後列左端が高司秀一社長＝合志市の



高司農園＝合志市

農業法人物語

16

合志市野々島の敷地2・5畝で観光農園やレストラン、加工所を一体運営し、農業の6次産業化に取り組む。高司秀一社長(56)は「農業は天候に左右される面があり、経営安定化のために飲食業との複合経営を思い付いた」と話す。

高司社長は大学を目指して浪人中だった19歳の時、父が急死したためブドウ農家を継いだ。消費者への直接販売に力を入れるため観光農園に転換。1991年の台風19号で大打撃を受けたことを機に、栽培作物を増や

【事業内容】観光農園やレストランの運営、果実加工品の製造
【生産規模】ブドウ100畝、モモ30畝、イチゴ30畝、ナシ20畝
【法人設立】2003年4月
【従業員】アルバイト含め11人
【売上高】約5000万円

栽培果実 加工品や料理に

すとともに経営の多角化を目指したという。

まずはブドウと収穫期の異なるモモやナシを導入して天候リスクを分散。その後、イチゴも加え観光農園で収穫を楽しめる期間が当初の年間2カ月から10カ月に伸び、集客増にもつながった。

2003年に法人化。金融機関から融資を受け、敷地内にビュッフェレストラン「花の果樹園」を設け、農園のフルーツを使ったイタリア料理やケーキなどを提供する。フルーツを調理加工することで「売れ残りは従来の25%前後から大幅に下がった」。

10年には、フルーツを活用したジェラートやプリンなどの製造に力を入れるため、敷地内に加工所兼売店を新設。製品は近くの「ユー・パレス弁天」の物産館でも販売している。

飲食・加工部門の業績は徐々に伸び、現在では売上高全体の7割近くを占めるまでになった。利用客は個人や家族連れが中心だ。熊本市に近いという地の利も強みになっている。

庭園かレストランの増築も検討中だ。高司社長は「施設の魅力を高め、フルーツのテーマパークを目指したい」と夢を膨らませている。

(猿渡将樹)

定 Ⅱ 次回は10月19日掲載予定